

令和8年2月20日

カンボジア官民合同委員会結果概要

日時：2026年2月9日(月) 東時間 09:00-12:00

場所：労働職業訓練省 職業教育訓練総局(MoLVT/DGTVET) 3階会議室

参加者数：29名

政府(3)： 東 労働職業訓練省 職業教育訓練総局(MoLVT/DGTVET) 副総局長(1名)

労働職業訓練省 職業教育訓練総局(MoLVT/DGTVET/DSC) (6名)

日 厚生労働省(1名)、

訓練施設(5)： CJDM(2名)、ITI(2名)、NPIC(5名)、NTTI(2名)、PPI(3名)

援助機関(1)： JICA(4名)

有識者(1)： SESPP(Skills Evaluation System Promotion Program) 事務局技術顧問(1名)

事務局(1)： JTB 霞が関事業部(2名) (別途、日東通訳1名)

1. 今年度の成果(SESPP 事務局)

(1)技能競技大会

・情報ネットワーク施工:競技課題採点・評価方法セミナー

7月14日～17日にNPICにて実施、受講者7名(7名修了)、競技者1名

(2)技能検定

・機械検査2級

技能評価技法研修(SEM) 12月15日～19日、NPICにて実施。受講者16名、修了者14名

技能評価者講習(SAT) 2月2日～6日、NPICにて実施。 受講者14名、修了者14名

2. 次年度実施に向けた提案(厚生労働省)

①SESPP事業の最終目標:

技能評価システムを構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る。

②技能検定の目標・活動

・技能検定・・・

目標:技能検定の定着及び実施職種のレベルアップ

活動:2025年までの事業のフォローアップ(技能評価トライアル、セミナー)

新たな職種への取組

③2026年度の事業実施案

・技能検定・・・

2025年度までの事業のフォローアップ(機械検査2級 SET and/or その他の職種のセミナー)

新たな職種への取組

3. 官民合同委員会での主な意見

(1) SESPP 支援職種の国家検定化の道筋について

- ・SESPP 事業で支援した電気系 3 職種(シーケンス制御、電気系保全、配電盤制御盤組立て作業)については、2 級の評価者が誕生している。これらの職種に対しカンボジア側では技能検定化に向けてどのようなロードマップを描いているのか、またどのように技能評価に生かしているのか伺いたい。(SESPP 技術顧問・稲川文夫)
- ・技能評価のシステムはカンボジアと日本とでは評価基準が一致していない。日本式の技能検定を実施するので、相互承認が出来るようにしていきたい。そのためにカンボジアと日本の技能検定の評価基準の一致を図っていきたい。カンボジアでの合格者が日本の同職種での資格を得ることで就職等に有利になると思われる。(MoLVT/DGTVET/DSC・Bun Heang 課長)
- ・資格の相互承認は ASEAN で取り組んでいるが、非常に時間がかかる。双方の仕組みをよく理解して双方のメリットをよく確認して進めて行く必要がある。(厚生労働省・内野海外協力推進官)
- ・相互承認は非常に時間がかかる。SESPP は日本の評価制度を紹介するが、それをカンボジアは自国に合った形にアレンジして取り入れてもらうことが目的である。日本は総合評価方式であるが、カンボジアはコンピテンシーベースなので、SESPP で支援した内容をカンボジア側でコンピテンシー評価方式の中で、ユニットとして取り入れていくことが求められる。(SESPP 技術顧問・稲川文夫)
- ・SESPP で支援された職種は、各訓練校でのカリキュラム開発、試験問題の作成、授業での指導に活かされている。(ITI、NPIC、NTTI、PPI)

(2) カンボジアでの今後の支援職種について

- ・カンボジア側からメカトロニクス、デジタルコンストラクション、業務用 IT ソフトウェア・ソリューションズ、電気設備、ビルディングインフォメーションモデリング、電気系保全 1 級、CNC マシニング、冷凍空気調和機器施工、産業用ロボット、溶接、農業関連での技能等の支援の要望が挙げられた。
- ・日本の技能検定は 133 職種で実施している、希望された職種では実施していない職種もある。日本の実施検定一覧を共有するので、その中で検討してほしい。(厚生労働省・内野海外協力推進官)
- ・メカトロニクスは日本の技能検定職種にはないが、空気(油)圧回路、電気回路、制御装置、プログラミング等の分野の技能が必要であり、それぞれ個別の分野を学び、積み上げることでメカトロニクスは出来るようになるのではないかと考える。(JICA・安原専門家)

以上